

# 信越化学工業株式会社

## 2024年3月期第2四半期 決算説明電話会議要旨

日時	2023年10月27日(金) 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業(株)
会社側出席者	・代表取締役社長 齊藤 恭彦 ・取締役兼専務執行役員 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務執行役員 広報担当 秋本 俊哉 ・執行役員 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 福井 真二
参考資料	<a href="#">2024年3月期第2四半期 決算短信</a>

\* このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

### 【決算概要説明 (社長 齊藤恭彦)】

- 2024年3月期第2四半期(7-9月期)  
連結売上高: 5,967億円(前年同期比 21%減)  
営業利益: 1,910億円(前年同期比 33%減)  
経常利益: 2,103億円(前年同期比 29%減)  
純利益: 1,478億円(前年同期比 29%減)
- 前年同期比では減益となったが、前四半期比でほぼ同水準。
- 第2四半期累計経常利益の会社予想値に対する進捗率は56%。
- 前四半期(4-6月)との比較を概括すると、生活環境基盤材料で塩ビの値上げ効果があり、電子材料はある程度の数量減があった。

#### [セグメント状況]

- 【生活環境基盤材料】:  
北米の塩ビ需要は、今年これまでのところ市場が季節を忘れたかのように、春需もなく、夏ダレもなく、秋需もなさそうで平ら。冬枯れもないだろうと見ている。一戸建ての住宅許可件数が増えており、良い傾向。アジア地域では、やはり中国の内需の弱さに市況が引きずられがちだが、値段の維持に注力している。ソーダの市況は10-12月に大型定修などの事情で上向くと見ている。市況は塩ビ、ソーダともに一進一退の状況がしばらく続くと思われ、価格と量の舵取りを精密に行っていく。尚、来年半ばに完成するシンテックの新増設は最新鋭の技術を取り入れており、数量増に加えて競争力が高まる。
- 【電子材料】:  
顧客の皆さまのお話を聞く限り、半導体デバイスの在庫調整は終わりつつあると感じる。長く続いた調整局面から市場が復調する時期については、諸説あり、どのケースにも対

処できる態勢を備えている。希土類磁石に対する需要は、車載用が堅調。全ての製品について、短期的な調整と中長期の基礎需要を分別しながら、能力増強を適切に行い、また品揃えの拡充と高度化を推し進める。ウエハーは長期契約の下、顧客の投資計画を考慮しつつ、能力増強を行う。露光材料については、供給態勢の更なる強化を推し進める。磁石に関しては、特性を落とさず、重希土類をまったく使用しない磁石を近々完成させる。また、新たな拠点の検討を開始した。

- 【機能材料】：

汎用品の市場は中国の動向に左右されているが、中国での販売も含めて、当社の強みである機能品・特殊品の伸張に注力している。車載用、パーソナルケアおよびヘルスケア向けが伸びている。汎用品については、案件ごとに良いものを攫っている。既に発表したか、シリコンにおいてカーボンニュートラルに役立つ製品群の拡充に焦点を置いた投資を進める。

- 【加工・商事・技術サービス】：

このセグメントの収益は安定的。

- 新規製品と技術に経営資源を投入してきている。EUV ブランクス、SiC 基板、GaN 基板、半導体パッケージング材料、マイクロ LED システム等で、これらが早期に収益に貢献するよう注力していく。

### 【補足説明（広報部長 福井真二）】

- 2024年3月期の設備投資額は約3,800億円、減価償却費は約2,400億円の見込み。
- 経常利益の為替感応度は、1円の変動でUSドルは年間44億円、ユーロは年間3億円。

## 【質疑応答】

### 〈生活環境基盤材料〉

Q	北米の塩ビ、か性ソーダ、原料の市況の動きについて
A	<p>(塩ビの市況)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 7-9月は4-6月に比べて若干上がりました。</li><li>・ 塩ビの価格は一進一退で、上がったたり下がったりする状況がしばらく続くと思いますが、当社は値段を維持することに注力します。</li><li>・ 10-12月はフラットで見えています。</li></ul> <p>(か性ソーダの市況)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 10-12月で反転の兆しが見えているので、値を切り返すことができると思っています。</li></ul> <p>(原料の市況動向)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 天然ガスの動きに大きな変動はなく、原料であるエタンも比較的落ち着いた動きをしています。</li></ul>
Q	シンテックの7-9月の業績について
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 経常利益ベースで4-6月よりも改善しています。</li></ul>
Q	足元の北米の塩ビ動向
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 10-12月は季節性が見られず平らな状況が続いています。今回9-10月で秋需がなかったことからして、冬枯れもなく需要は安定していると見えています。顧客が在庫に注意を払っているのと、北米の住宅建設も比較的安定的なので、全体的に平らという印象を持っています。</li></ul>
Q	生活環境基盤材料セグメントの利益水準について
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 色々な合わせ技の結果でこの利益率になっています。</li><li>・ 業界紙などの価格の動きも1つですが、それだけで塩ビの市場が説明できるものでもありません。塩ビと言ってもグレードは複数あり、また海外の市況も場所によっては各様です。そういうところを上手く組み合わせ、数量を売り切っています。原料コストも、マーケットベースのコストと自前で作っている分のコストの組み合わせでこのような数字になっています。</li><li>・ か性ソーダも国内と輸出では様相は大きく異なり、輸出は仕向け先によって状況が違います。か性ソーダの半分が水なので、ロジスティクスの工夫も利益に効いてきます。</li></ul>

Q	インドの塩ビ市場について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インドは大変重要な市場と見ており、結構な数量を販売しています。インドの国内生産も増えていきますが、趨勢としてインドの需要はますます伸びていくと見ています。インド向けには日本、米国拠点ともに出荷しています。</li> </ul>

## 〈電子材料〉

Q	半導体ウエハーの2Q（7-9月）の市場動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ お客さまの生産調整により、ウエハー市場は全口径で前四半期比マイナスとなりました。昨年ピーク時に対しては、口径が小さくなるほど減少幅が大きく厳しい状況となりました。当社の販売もこの市場の流れに沿った動きとなっています。</li> </ul>
Q	半導体ウエハーの3Q（10-12月）の市場動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ウエハー市場全体では7-9月が大底と見ており、10-12月は多少の伸びを期待しています。口径別では、300mm ウエハーは底入れを期待していますが、200mm ウエハーについては、依存率の高い産業や民生向けの足取りが重く、また自動車向けも一部で調整の話が出ており、底を打つのは来年にずれ込むとみています。150mm ウエハーは底を這う動きとなっています。</li> </ul>
Q	メモリー向けと非メモリー向け半導体ウエハーの見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 300mm ウエハーのメモリー向けは、市場の6割弱を占めています。メモリーデバイスは、メーカーのデバイス在庫調整が進んでおり、統計データによるとビット需要も回復傾向を示しています。ウエハー需要は、来年前半までは厳しい状況が続くと思われませんが、後半にはある程度の回復を期待しています。</li> <li>・ 300mm ウエハーの非メモリー向けについては、お客さまによって在庫調整時期にばらつきがありますが、メモリー向け同様に来年後半にはある程度回復を期待しています。</li> </ul>
Q	300mm ウエハーの需要動向について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 300mm ウエハーについては、お客さまのウエハー在庫は来年の1-3月がピークになると見ています。来年後半に向け在庫調整の進展を見込んでおり、ウエハーの出荷量も増加していくと考えています。</li> <li>・ 多くのお客さまは、24年後半から25年にかけての需要増大を見込んでいる様子です。</li> </ul>

Q	300mm ウエハーの価格動向と設備投資について
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期契約（LTA）価格については、お客さまからの協力要請はあるものの、設備投資や増産対応に必要な費用に基づき合意した内容ですので、LTA 価格は維持しています。</li> <li>・ 各お客さまとは主に 2027 年までの LTA を締結しており、設備投資は順次行っています。半導体デバイス市場の状況により多少の見直しを行っていますが、投資計画に大きな変更はありません。</li> </ul>
Q	EUV ブランクスの量産開始について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスク、マスクを用いたデバイスの試作評価にはそれなりに時間がかかりましたが、お客さまでのデバイスの試作も完了し、量産体制に入っていきます。今期の貢献度合いはそれほどでもありませんが、来期にはそれなりの寄与を期待しています。</li> <li>・ どの世代に使われるかという点については、一つの世代だけではありません。お客さまによって違いますが、当社の目指しているところは先端であり、お客さまのお役に立てるように鋭意取り組んでいきます。</li> </ul>
Q	重希土類無使用磁石について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 希土類磁石の需要そのものが増えていきますので、この重希土を使わない磁石の生産を伸ばしていきますし、既存のラインも伸ばしていきます。</li> </ul>
Q	電子材料セグメントの償却前利益と営業利益率について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前四半期と比較して償却前利益は減っていますが、利益率は下がっていません。一つの要因としては、レア・アースマグネットの売値は原料価格に連動します。原料価格下落により売上金額は減少していますが、利益は確保できていることにより利益率が上昇したことがあります。</li> </ul>

## 〈機能材料〉

Q	シリコーン事業について
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汎用性の高い品目のところで結構苦戦を強いられています。需要が弱く、値段が下がりました。当社としては付加価値の高い製品を増やすことに取り組んでいます。</li> <li>・ 汎用品の底入れと復調については、中国の経済がどうなるかに左右されると思います。これは中国の需要もさることながら、汎用品は中国で相当多く作られていますので、中国からの輸出量次第になると思われます。</li> </ul>

〈全 社〉

Q	年間の業績予想について
A	・ 経常利益の年間の業績予想に対する進捗率は現時点で 56%です。世の中刻一刻と変わりますので、毎月きちんと積み重ねて、数字を必ず出そうという強い意志で取り組んでいます。